

第3回北区基本計画策定懇談会 摘録

- 1 日時 平成22年12月7日（火） 13:30～15:00
- 2 場所 ルビノ京都堀川 平安の間
- 3 出席者 市川座長，池坊委員，三谷委員，岩井委員，北川委員，黒田委員，志賀委員，新谷委員，谷田委員，田上委員，角岡委員，中川委員，永野委員，納屋委員（代理出席），吉田委員，大森区長

〔開会〕

事務局

（開会）

区長

（開会挨拶）

事務局

（欠席委員の紹介）

〔議事〕

1 北区基本計画パブリックコメントの結果と「次期北区基本計画案」の修正について

○事務局

（資料説明）

○座長

意見をどうぞ。

○角岡委員

パブコメ資料のP2の人材不足や高齢化のところに関連するが，現実には，後継者を育てようとする機運が欠けているように思う。学区のために活動されている方は尊敬するが，実際には若い人はいても，その人たちに交代しようとする機運が欠けているのではないかな。地域の活性化を図るには，新しい人に譲っていく必要がある。地域の活性化，住みよいまちづくりに向けては，人と人とのつながりを大切にしつつ，引っ張っていく人の気骨をもっと若い人が助けてやっていかなければならない。

○事務局

ご指摘は，計画案P10の「地域のコミュニティ活動を支える人材づくり」のところでふれている。担い手の育成は大きな課題であり，精力的に取り組んでいくべきものと認識している。ご指摘の方向性を含んだ記述であり，今後どういう取組をしていくかは今後具体化していく中での大きな課題である。

○座長

考え方はすでに出ており，実際の活動の中でどう生かしていくか考えていただきたい。

○岩井委員

人材不足に関し、区民の今後の力を期待するのであれば、旧来からの自治会や体振などの団体と協働でやってきたが、今以上の負担をしてもらうのは難しいと思う。計画を推進していくには、旧来の団体ではなく新たな団体をつくっていくことが必要ではないか。膨大な分野の計画であり、自然発生に任せるのではなく、新たな組織づくりを同時に進めていかないと絵に描いた餅になる。組織づくりについて記述したほうがいいのではないか。

○事務局

P23に第5章で様々な主体が参画する推進組織の設置ということで既存の団体、団体に含まれない方、行政等が集まり、この計画を進化させること、PDCAサイクルを進めることなどを含めて、具体的な計画の実施につなげる組織を立ち上げたいと考えている。

○座長

新しい組織づくりを並行して進めるという意識を持っていただきたい。

○田上委員

学童保育についてひっかかる。保育について考えると、国の予算で法的に実施されているものとボランティアで取り組もうしているものとが並行して進められている中で、パブコメの中でふれられている学童保育所の充実というのは、小学生を対象としたようなものが含まれるのではないかと思う。放課後学び教室なども実施されているが、非常に人材的に弱い。それらに対する充実についてももう少し具体的に書いていただきたい。例えば、学童保育にかかる人材センターの設立というような具体の施策を位置づけてほしい。

○事務局

第3章の施策は、その方向性を示している。来年度以降、推進組織等での議論を経て、毎年の北区の運営方針を作成していく中で具体化をさせていきたい。

○吉田委員

P2に少子高齢化が唱われているが、山間部ではそれ以上に新規の住民が増えていない。それは、地域が市街化調整区域に指定されており家が建てられないからである。左京区の小出石では新築できるようにするための地区計画をつくったと聞く。北区でもこの地域に新しく住んでもらうため地区計画を作成することを入れていただけないか。

市街地から右京区を經由して来るので右京区に近くなってしまい、やはり、北区は北区の中で移動しないと一体感が生まれない。調整区域の見直しができないなら、地区計画をつくるのが一番いいと思っている。

○事務局

大きな課題と認識している。地区計画をつくるには、まとまった面積がないため難しいと聞いているが、空き家等の活用により、新たな住民を誘う方法もある。方向性としては、同じ方向を向いており、具体的にどういったことができるか考えていきたい。

○永野委員

健康づくりの推進のところで、生涯を通じてというのであれば、高齢者や障害者だけで

なく、我々が病気のときに利用する医院や子どもの病院のマップづくり、救急のときの連絡方法を知らせる取組などを進めていただきたい。生活習慣病の早期発見は、検診を進めており、それらをきちんと書いていただきたい。

○事務局

主な取組例で方向性を書いているが、いただいたご意見と同じ方向を向いていると思う。具体化させていく中でマップづくりなどを落とし込んでいくことになる。

○田上委員

周山街道の話があったが、鷹峯に住んでいる者の立場から申し上げると、確かに右京を経由するのは不便であるが、周山街道はそのままの方がいい。今、歴史を語る会などで、地域を今後どうしていくか、いろいろ動いている。この前、雲ヶ畑で撮影会があったが、自然の中で地域の方がどうしたら生きながらえ、発展するのか、ということを考えている。これらを踏まえ、確かに人口は減っているが、我々が後世に残すことを考えたとき、どれがふるさととして一番いいのか、地元の人がどんな意見を持ち、どんな活動しているのかも踏まえた中で、検討していただきたい。ビルが建ち、車が走り、人口が増えるというのが未来志向なのか、という思いがある。地元の意見を聞きながらまちづくりを考えていただきたい。

○事務局

おっしゃる通りである。この計画は区役所だけで進められるものでなく、各種団体や区民の皆様の思い、意見を推進組織等でくみ上げ、どうしていくのが区民にとっていいのか具体化させていただく。その中で、出発点は地域の皆様の意見をいかに吸い上げていくかというところだと思う。そういったことができる組織づくりをしていきたい。

○新谷委員

大学生は時間があり、いろんなことがやりたいと思っているのに、どんなことが募集されているのかわからないことが多い。運動会に大学生を呼んだらもっと盛り上がるのではないかという話もある。大学生に、もっと地域に入っていただきたいが、何を募集しているのかもわからない。学生に限らず、消防隊員もやりたいけど、どこにいったらいいかわからない、募集しているかもわからないと思うので、誰もがすぐ目につくようにできたらいいと思う。

○事務局

そのような仕組みづくりを進めていきたい。今、北区のある学区ではホームページを立ち上げ、そういうことを考えているところもあるし、この計画でも情報発信や情報共有を重要視している。我々や区民の皆様が持つ情報をいかに広く行き渡らせるか、という仕組みづくりしていかなければならないと思っている。大学生については、サークル活動の成果を発表する場を求めているということも聞く。例えば、北区ではふれあい事業の一つである船岡山の春祭りなどの機会を捉えて来ていただき、発表の機会として使っていただくようなことを進めていきたい。また、大学の専門の知識をいかにまちづくりの中に取り入

れていくかも考えて行かなくてはならない。

○座長

もうちょっと北区が大学に積極的に情報発信せよということだと思う。大学は地域との連携の重要性を数年前から感じていたが、大学から地域への発信がうまくできていない。逆に地域から大学にリクエストをもっていけば受けざるを得ないので、地域の声をもっと大学に届けてはどうか。

○中川委員

北区の防犯活動に京都産業大学の力を借りて、青パト2台で従事している。学生の皆さんには積極的にしていただいております、防犯の会合にも出席していただき、地域の方も喜んでおられる。高齢化が進んでおりリーダーシップのある方をお願いして地域のためにとっても、リタイアして自分の趣味の世界に入っており、出てきてもらうのが難しくなっている。消防団も過酷なボランティアであり、すぐやめてしまう。このようなことをやりたくない人が増えつつある世相だと思う。行政には、そのようなことも考えていただきたい。

○大森区長

パブコメに寄せられた意見については文言の体裁として修正加筆することが適当なもの、むしろ今後の個々の事業の推進にあたり指針として承るべきものがある、今伺ったいくつかの意見については、今後の施策の一つの方向性を指し示していただいたというように承った。北山三学区の地区計画について、大原で功を奏したという報道があつて注目を集めているところだが、市街化調整区域の地区計画の設定については、この間何回も市長を交えて議論が行われてきたと聞いている。住民の方々がまとまり、建て方などについて決めごとをする手段として建て方などについて決めごとをする建築協定があるが、拘束力がない。面的な合意形成を図るということでは地区計画があり、これは行政がオーソライズする方法であるが、これを一度結ぶと拘束力がかかるため、一体的な建築についての取り決めをするのは難しいという実態もある。大原の件は、長年、時間をかけて乗り越えてこられた上での成果であり、三学区でもそのあたりの難しい問題も踏まえながら試行錯誤を繰り返していることも承知しており、方向性や検討課題の一つとして十分認識している。そういう意味で、今後三学区では大原の紹介もしながら前向きに検討していきたい。医療の問題について、医療マップの話があつたが、民間の方の取組、市の取組、医師会の取組もある。そういったものをどうまとめ普及促進させていくかいろんな意見があるが、今日の指摘を踏まえ、前向きに議論をすすめていくことを承った。大学について、学生に参加していただくことと我々が働きかけていくことに関し、この計画の策定にあたり、大学をまわりアピールさせていただいた。このような足で稼ぎながら繰り返しお互いに情報交換し、意思疎通を高めていきたい。具体化にあたっての方法などについては、推進組織において、もっとも有効で区民の皆さんに広く参加していただける取組の進め方について議論をしながら、そこで点検をしながら個々の具体的な取組を推進させていただきたい。今日いただいた意見については、十分反映するとともに区民の皆様へ投げかけなが

ら進めていきたい。

2 北区基本計画パブリックコメントの結果と「次期北区基本計画案」の修正について

○事務局

(資料説明)

○座長

3つの案について順番通りの提案か。

○事務局

順不同で考えていただきたい。

○吉田委員

各学区でこのような愛称が決まっているのか。同じようなものになってはいけない。

○事務局

まだ決まっていないと聞いている。

○志賀委員

簡単な「はつらつ北区プラン」がいいのではないか。

○新谷委員

見てわかりやすいのがいい。1番は子どもにとってわかりにくい。私も3番がわかりやすいと思った。

○岩井委員

具体的な内容でわかりやすく、北区の特徴を表している点から2番ではないかと思う。

○中川委員

「北区チャレンジプラン」というのが短くていいと思う。

○角岡委員

最初は「地域力向上プラン」がいいと思ったが、少し押しつけがましいし、2も一般的すぎる。パッとみて、みんながはつらつと意見交換して地域も活発にイケたらいいと思うので3番を推したい。

○池坊委員

計画の趣旨から言うと1番が最も近い気もするが、言葉が限定されすぎており、縛りになってしまうことも考えられるので3番のようなぼやとした言葉の方がいいと思う。

(出席委員がそれぞれ推すものを表明)

○市川座長

3番を推す方が最も多いので、3番の「はつらつ北区プラン」に決めさせていただく。

3 今後のスケジュールについて

○事務局

(説明)

○座長

今日の意見を踏まえ、この計画にかかる修正はあるか。

○事務局

よろしければこれで最終案とさせていただきたい。

○市川座長

本日のこの計画案を北区基本計画策定懇談会の最終案としてお認めいただけますでしょうか。(全員了承)

これを北区基本計画策定懇談会の最終案として市長に報告させていただく。

これで本日の懇談会を終了する。

【閉会】

事：閉会